

(案)

白井市生涯学習推進委員会 検討テーマ

「社会教育関係団体の育成・支援のあり方について」

白井市生涯学習推進委員会では、市の生涯学習や社会教育に関する課題などに対して検討するにあたり、委員よりさまざまなテーマを出してもらいました。

今回、本テーマを選んだ理由として、現在、学びの場は行政から民間、市民団体までさまざまな選択肢がある状況のなか、身近に学べる場のひとつとして「社会教育関係団体」が提供する学習の場があります。

しかしながら、社会教育関係団体においてもさまざまな問題（高齢化、他団体との交流の場の不足、活動の場の確保、会員の育成など）があり、市民が身近に学べる場が少なくなりつつある状況があります。

市民が多様に学べる場の確保のためにも、社会教育関係団体の充実は不可欠であり、市はその育成をすることが重要になってきていることから、本委員会のテーマとして検討を行うこととしました。

＜今、なぜ「サークル活動」や「社会教育関係団体」が大切なのか＞

○サークル活動や社会教育関係団体の活動の魅力

地域でサークルや社会教育関係団体が活動することの魅力として、一つ目は、人との交流、人と人との関係づくりを通じて形成される「人と人とのつながり（孤立の防止）」です。

サークルや社会教育関係団体は同じ興味や趣味を持つ人たちと出会える場でもあります。知人、友人が増えることで自分の居場所を見つけることにもつながります。

二つ目は、「楽しむ場」「生きがいの場」ということです。

生きがいや楽しみはサークル活動や社会教育関係団体での活動の中でも重要です。

楽しんで活動し、生きがいを持って生活することで、自分がやりたいことが達成でき、満足感を得ることが期待できます。

三つ目は、自己の知識のスキルアップや向上が期待できる「学びの場」ということです。

教養を高めることで、問題解決力の向上も期待でき、自己満足度も高まることも期待できます。

○サークルや社会教育関係団体が地域に存在するメリット(存在意義)

地域にサークルや社会教育関係団体が存在するメリットとしては、一つ目は「地域の活性化」です。

地域が希薄化している中、活動している団体が多く地域にあることで、興味のある活動に気軽に参加しやすくなります。参加することで地域住民の連帯意識

(案)

も高まることが期待でき、地域が活性化していくことも期待できます。

二つ目は「活動を通じての横の繋がりや広がり」です。

多くの団体等が地域で活動することは、一つの団体ではできないことでも、お互いができることを協力し合うことにより、目的が達成できることが多くなります。それがきっかけで、活動の幅も広がることが期待できます。また、個人が複数の団体に所属することによる横の繋がりも期待できます。

三つめは「居場所の確保」です。

サークル活動をすることで、自分の居場所を確保できるだけでなく、活動を地域に還元することがあれば、地域の人との交流だけでなく、その還元活動が地域での居場所づくりにもなることも期待できます。

その他にも、地域にサークルや社会教育関係団体が地域に根差した活動をするすることで、潤いができ、市民の精神的なサポートも期待できると考えます。

○サークルや社会教育関係団体の活動が今よりさらに活発になることの効果

サークルや社会教育関係団体の活動が今よりさらに活発になることの効果としては、「地域力の向上」が期待できることです。

活動を通じて、人と人がつながり、それが団体同士のつながりになり、つながることで活動がさらに活発していくことが期待できます。

活発になることで、市民が自ら地域を考えて交流が広がり、支え合い・助け合いに繋がっていくことも期待できます。

地域力が向上することは、暮らしやすい地域になること、最終的には郷土愛につながっていくのではないかと思います。

<サークルや社会教育関係団体を取り巻く現状や課題>

現代社会において、少子高齢化や核家族化、職住分離等が進行し問題視されています。

白井市においても同様なことが起きており、地域の間人間関係が希薄になってきている様子が伺え、そのため、地域の活力も停滞傾向にあります。

このことは、「地域力」にも大きく影響しています。

例えば、少し前は地域の子どもは地域で見守ってきていましたが、近年では、地域で子どもの成長を支えることが難しくなっており、子育ての孤立の問題（ワンオペ育児、虐待など）がクローズアップされてきています。

このようなことから、地域はいろいろなことを求められており、「地域力」の向上を期待されている現状でもあります。

こういった課題は、活動しているサークル・社会教育関係団体の活動にも影響が広がってきています。

団体からは、「メンバーが増えない（新規加入者がいない）」、「新しい活動をする

(案)

ことに意欲がわからない(活動のマンネリ化)、「隣の部屋での団体が何をしているのかわからない(団体相互の横のつながりが無い)」などの声が聞かれます。

また、昔はどこにでもあった「子ども会」や「婦人会」、「青年団」などの社会教育関係団体も、こういった課題に直面し、活動が難しくなり次々と解散してしまいました。

こういった状況がある中、まだまだ元気に活動しているサークルや社会教育関係団体は地域には多く存在しており、地域に根差した活動を行っています。

ただ、その活動している情報は、市民に広く伝わっていません。

市民には「サークルに入りたい」「これからは地域で活動したい」と思っている人もいますが、本当に必要な人にこういった情報が伝わる手段が乏しく、加のきっかけに結びついていません。

一方で、新規加入者の受け入れをしない閉鎖的な団体もあり、活動が広がらない一因になっていることも現状としてはあります。

サークルや社会教育関係団体の中には、同じような悩みを持ちながら活動しているところも少なくありません。

しかしながら、この悩みを団体間で共有できていない状況であり、解決するために協力したり協同したりという取り組み(仕組みづくり)はできていません。

また、行政(生涯学習課)や公民館、公民館類似施設等は、サークル・社会教育関係団体が抱えている悩みを認識していながらも、具体的な支援策を講じられないでいる状況です。

<サークルや社会教育関係団体が新型コロナウイルス感染症の流行により直面した現状や課題>

今、日本だけでなく世界中で猛威を振るっている「新型コロナウイルス感染症」は、私たちの生活を大きく変化させました。

今まで普通に行ってきたことができなくなり、それは、サークル活動や社会教育関係団体の活動にも大きく影響してきています。

公民館等の活動の場所も一時臨時休館となり思うような活動もできなくなり、団体の衰退も見られます。

活動において接触を避けることが不可能なサークルもあり、活動の方法を変更せざる得ない団体も増えてきています。

<地域力の向上を目指すためにサークルや社会教育関係団体に必要な支援>

地域力の向上を目指すため、団体等が抱えている課題を解決するための支援策が必要となってきます。

今回、団体等が直面している課題や地域を活性化させるためという視点に重きをおき、支援策を考えていきたいと思えます。

(案)

【検討課題①】

サークルや団体の加入者を増やすには？

- ・公民館等が既存サークルや団体と協力して講座を開催し、サークル活動の支援を行う
- ・インターネットやSNSの活用が苦手なサークルや団体に対しての支援
- ・サークルや団体が情報を共有することができるホームページやSNSの構築

【検討課題②】

サークルや団体の横のつながり、活動の横のつながりを充実させるためには？

- ・市民だけでなくサークルや団体に対してもコンパクトにまとめた情報を提供することで、自分たちの活動を補うことができるサークルや団体を知ることができ、活動の幅を広げることができる
- ・同じジャンルの団体が集まり交流や発表できる場の提供

【検討課題③】

「新しい団体」の立ち上げを促進するためには？

- (サークルから社会教育関係団体への移行を促進する観点も含めて・・・)
- ・まずは「知ってもらおう」ことが重要であるため、サークルや団体の宣伝・広報活動の充実が必要。例えば、各公民館等で活動しているサークルや団体について、各公民館等が常に周知する体制を整えたり、広報しろいで特集を半年または1年に1回組んだり、サークル紹介の冊子を作成したりなどの支援
 - ・社会教育関係団体として好ましい活動を行っている団体について表彰する制度の新設

【追加課題～新型コロナウイルス感染症拡大をうけて～】

新型コロナウイルス感染症により、大きく活動が制限され、サークルや団体の維持・存続さえ難しい状況が続いています。

実際、集まって活動ができない期間が長くなり、サークルや団体を維持していくだけの意欲が無くなり、解散をしてしまったところもあります。

このように、社会教育関係団体だけでなく、サークルや一般団体を減少させないためにも、検討課題の①、②、③にとらわれずに幅広く長期的な支援を行っていく必要があります。

活動の見通しが立たない中、社会教育関係団体の認定を受けるための要件に満たないために申請を行わない団体も多くあることが予想されるため、市はどのような団体に対してどのように支援する必要があるのか検討する必要があると考えます。